

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

西暦2017年11月 9日作成

研究課題名	外傷症例における Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta (REBOA) 留置の至適位置予測式作成：多施設共同観察研究
研究の対象	外傷により、横浜市立大学市民総合医療センターおよび横須賀共済病院の救命救急センターへ救急搬送された16歳以上、①鼠径部よりカテーテルを挿入し造影CTを撮影した患者さん、および②REBOA挿入後にCT撮影した患者さん。
研究目的 ・方法	外傷後の血行動態安定のためにREBOAを留置することは一般的に行われていますが、留置時における至適位置は必ずしも明らかでないため、至適範囲の特定と至適位置の予測式を作成することを目的としています。3D医用画像処理ソフトウェアを用いて、患者さんのCT画像から血管中心線をトレースして計測し、実際の挿入部からREBOA先端までのREBOA自体の長さ、挿入部から先端までの血管中心線によるトレース値を測定します。REBOA先端までの長さについて、年齢、性別、身長、体重、重症度による影響を考慮した数式を作成します。
研究期間	西暦2017年 12月 18日（承認日） ～ 西暦2022年 3月31日
研究に用いる 試料・情報の 種類	基本情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症 外傷に関する情報：受傷機転、診断名、Abbreviated Injury Scale (AIS)、Injury Severity Score (ISS)、予測生存率、ならびに外傷学会データベースに準ずる項目
外部への 試料・情報の 提供	外部への試料・情報の提供はありません。
外部からの 試料・情報の 取得と保管	横須賀共済病院救急科の提供する情報は、主たる研究機関である横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センターに、集積したデータにパスワードをかけて提出します。本研究のため収集しデータベース化した情報のデータマネジメントを横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター医局で行い、パスワードのかかるPC内で行います。また、研究に関する文書及び記録は各研究機関にて厳重に管理されます。
研究組織	横須賀共済病院救急科 中嶋 賢人 〒238-8558 横須賀市米が浜通1-16 電話：046-822-2710
本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。	

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 岩下 眞之

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-253-9913